



“宙返り何度もできる無重力”

向井千秋宇宙飛行士は、宇宙の無重力を実感しながら、短歌の上の句を地球の私たちへ向けて詠みました。この短歌と宇宙を結んだのは、正岡子規の俳句がきっかけでした。その短い生涯で、24,000 句もの俳句を遺した子規も、星を見上げ、月を仰ぎ、天の川の下で、句を詠みました。

妹に七夕星を教へけり 子規(明治32年)

明治の夜、「病牀六尺」という世界から子規が見上げた宇宙に向けて、人は飛び立ちました。そして子規が生まれて 150 年を迎えた 2017 年、愛媛・松山で宇宙の国際会議 ISTS が開催されます。

少しずつ身近になる宇宙を見上げ、同じ星を見て、私たちは何を感じ、何を思うのでしょうか。

宇宙の歌・宇宙の句—
今を生きる、あなたの短歌・俳句を募集します。



左の応募用紙をハサミで切り取り、ハガキにしつかりとのり付けして、右の応募先まで、お送りください。 ※募集要項をご確認の上、ご応募ください。

宙返り何度もできる無重力
に続く下の句

	宇宙の句 (俳句)		宇宙の歌 (短歌)	
※文字は、濃く楷書で正確にお書きください。(消せるペンは使用不可。)				

応募用紙
(二月二十八日必着)
※切手を貼ってお送りください。

〒					
※ジュニアの部	学校名・学年	氏名	ふりがな	住所	
学校 年					
電話番号					
メールアドレス					

(応募・問い合わせ先)
〒790-8571 松山市役所 企画戦略課内
I S T S 地元事業実行委員会事務局
電話 089-948-6213
※月～金(祝日のぞく) 8:30~17:00
HP <http://www.ists-ehime.space/>